

# SUSTAINABLE PROJECT

サステナブル社会への取り組み

「LAKE BIWA TRIATHLON IN MORIYAMA」は、2回目となる今大会で「平和とサステナブル」というコンセプトを掲げました。協賛企業をはじめ、参加する選手・応援する地域の皆様全員でサステナブルな社会の実現に向けたメッセージを発信します。「サステナブル・プロジェクト」では、協賛・協力企業から6社のサステナブルな取り組みを取り上げ、6名の学生ライターが取材、noteやプロジェクトHPで発信しました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

プロジェクトページ



bit.ly/3bm0ldq

## 株式会社ユーグレナ



バイオベンチャー・ユーグレナ社からは全ての大会参加者へ「からだにユーグレナ」ドリンクを提供いただきました。このドリンクは、59種類の栄養素を摂ることができるスーパーフード「石垣島ユーグレナ」を10億個を使用した、からだのサポートドリンクです。石垣島ユーグレナは、環境的要素に配慮した責任ある方法で育てられ、「ASC-MSC海藻（藻類）認証」を世界で初めて取得したサステナブル・フードでもあります。



## 株式会社平和堂



滋賀を拠点とする大手スーパー・平和堂は「地域共創」を掲げ、事業全体でサステナブルな取り組みを推進しています。今大会では、滋賀の食の魅力が詰まった新しいお弁当「BIWAKO BENTO」を提供いただきました。近江牛のメンチカツや小鮎の佃煮、滋賀県産米みずかがみなど、地産地消の食材を使い、紙素材の外装のQRコードからは主催者メッセージや滋賀の自然・食の魅力を映像で見られる仕掛けがされています。



## BIWAKO PEARLS SURPRISE



日本最大の湖・琵琶湖では、約90年前から淡水真珠の養殖が行われてきました。1970年代以降、環境変化によりその姿が失われつつありましたが、琵琶湖の水環境の改善によってその輝きを取り戻し「びわ湖パール」として販売されています。今大会では参加者への記念品として、滋賀県産のヒノキで琵琶湖を形取り、中央にはびわ湖パールをあしらった、サステナブルなオブジェを提供いただきました。



■主催 / LAKE BIWA TRIATHLON IN MORIYAMA 実行委員会 ■共催 / 守山市、野洲市 ■後援 / 滋賀県、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、守山商工会議所、守山市観光物産協会、野洲市商工会、野洲市観光物産協会、公益社団法人びわこビジネスマンズビューロー、守山湖岸振興会、公益財団法人滋賀県交通安全協会、守山野洲交通安全協会、公益財団法人守山文化体育振興事業団、守山市スポーツ協会、滋賀県自転車軽自動車商業協同組合守山野洲支部、一般社団法人滋賀県自転車競技連盟、近江守山ライオンズクラブ、守山ロータリークラブ、淡水を守る釣り人の会 ■協賛 / メルセデス・ベンツ日本株式会社、琵琶湖マリオットホテル、株式会社平和堂、たねや・CLUB HARIE、ヤンマーマリンインターナショナルアジア株式会社、ブライティング・ジャパン株式会社、マヴィックジャパン株式会社、サイクルヨーロッパ株式会社、オン・ジャパン株式会社、株式会社カワシマサプライ、Wahoo Fitness、ココ・コーポレーション株式会社、株式会社ユーグレナ 他 ■協力 / 地元自治会、地元農業組合、守山漁業協同組合、野洲川下流土地改良区、佐川急便株式会社、株式会社セブン・イレブン・ジャパン、西武造園株式会社、中西建設株式会社、TAC・ナショナルメンテナンス共同事業、株式会社滋賀銀行、粉飽、Power Production (Glico) 他 ■メカニック協力 / GIANT JAPAN、キヨシ商会 ■主管 / 一般社団法人滋賀県トライアスロン協会

THE 2nd ANNUAL LAKE BIWA TRIATHLON IN MORIYAMA Sustainability Report

## たねや・CLUB HARIE



和洋菓子のたねや・CLUB HARIEからは、ゴールした参加者に「バームクーヘンのポストック」と、人気の「どらやき」を提供いただきました。特にポストックは、バームクーヘンを作る工程において商品にできなかった部分を利用し、新たな美味しいお菓子として生まれ変わった、食品ロスを解決する商品です。たねや・CLUB HARIEでは、滋賀・琵琶湖の自然を守り、持続可能にしていく取り組みを展開しています。



## 株式会社セブン・イレブン・ジャパン



セブン・イレブン・ジャパンのサステナブルな取り組みの1つである「ペットボトル回収事業」は、回収したペットボトルを資源として活用し、もう一度ペットボトルに再生する循環型のリサイクルの仕組みを構築しています。今大会のゴール地点にもペットボトル回収機が設置されました。ペットボトルの回収・再資源化・製品製造の過程が分かりやすく、お客様にとってもしリサイクルに参加していることが実感しやすい取り組みです。



## 佐川急便株式会社



宅配便事業大手・佐川急便は、今大会の参加選手の自転車を運ぶ過程において、CO2排出量を減らす輸送を実証実験を行いました。従来の「最初から最後までトラック輸送」とは異なり、輸送段階においてCO2を排出しないEVトラックの使用と東京・京都間での列車の使用という点でCO2排出量の削減を目指しているそうです。イベントにおいて「ものを送る」という観点から、大会運営と環境負荷低減の両立に貢献していくといえます。



発行 / LAKE BIWA TRIATHLON IN MORIYAMA 実行委員会  
HP / <https://www.mspp.jp/biwatri/> Contact / [tanaka@ceepo.com](mailto:tanaka@ceepo.com) (田中)



# THE 2nd ANNUAL LAKE BIWA TRIATHLON IN MORIYAMA

Sustainability Report



7.2 2022 SATURDAY 7:00 START!!

**RACE COURSE**

- SWIM 1.9 km**  
琵琶湖沿岸の1周950mのコースを2周回
- BIKE 58 km**  
湖岸道路を2周、内陸部・野洲川沿いを3周回
- RUN 12 km**  
往復4KMのコースを3周回

大会当日の熱中症警戒アラート発令により、当初予定していたSWIM:1.9km、BIKE:73km、RUN:20kmのコースから短縮して実施

主催 | LAKE BIWA TRIATHLON IN MORIYAMA 実行委員会 共催 | 守山市 / 野洲市

# THE 2nd ANNUAL LAKE BIWA TRIATHLON IN MORIYAMA

滋賀県・琵琶湖を舞台にしたトライアスロン大会、「LAKE BIWA TRIATHLON IN MORIYAMA」。初開催となった第1回(2021年10月)に続き「参加者全員が主役」というコンセプトで、2022年7月2日、第2回大会を開催しました。参加者と地元住民の方との協調、トライアスロンを通じた健康、道徳、教育の発展、さらに大会実施による地域活性化を目的として、国内外における琵琶湖、開催地となる守山市の魅力発信につなげるスポーツイベントを目指しています。

## MESSAGE FROM HOST 主催者メッセージ

### 一番のコンセプトは「全員が主役」

大会の開催にあたり、かねてより私は「全員主役」を掲げています。これは、選手はもちろんのこと、マーシャルやボランティア、大会を受け入れてくださった地元の皆さまにとって満足していただける大会を目指しているからこそです。選手だけでなく、応援する人、大会を支える人など、レースに関わる全ての人が「主役」となる大会にできればと考えています。



今回最も印象的だったシーンが、最終ランナーに学生ボランティアの皆さんが並走する姿でした。自らの意思で、最後の選手を応援したいという想いから生まれたシーンです。タイムにこだわるのではなく、自ら、そして周りも巻き込んで、トライアスロンそのものを楽しみ、高め合う。その文化を大会を通じて残していきたいと考えています。

### 「平和」と「サステナブル」

今大会から、新たに「平和」「サステナブル」をコンセプトに加えしました。「平和」は、昨今の世界情勢の中で生命の貴さを強く感じた地元・守山南中の中学生たちが、大会に向けた書としてプレゼントしてくれた言葉です。そして、この大会を持続可能なものとしていくために、会場となる琵琶湖の環境についても意識し、「サステナブル」をコンセプトに加えしました。平和もサステナブルも、一人ひとりの意識と心がけによって始まり、継続されることによって大きな結果となります。レースに携わったすべての人に、少しでも意識してもらえよう、大会コンセプトとして掲げています。

## LAKE BIWA TRIATHLON IN MORIYAMA 実行委員会 大会実行委員長

### 田中 信行

Nobuyuki "Joe" TANAKA



### 地元にも貢献できる大会へ

大会を主催する立場としての役割の1つに「地元と選手とのパイプ役」があると思います。地元の人が大会を迎えるためにどんな準備をしているのか、どんな思いで応援してくれるのかを選手に伝えることです。今回もフィニッシュエリアで、協賛企業の皆さまや地元の方々にお菓子や新鮮な野菜など、選手へのプレゼントを沢山用意いただきました。今大会では協賛・協力企業・地元自治会など様々な方にご協力いただきながら、まさに「お祭り」のような大会になりました。大会に関わった人が地元を好きになって、そこから様々なつながりが生まれていくことも期待しています。



## OFFICIAL MOVIE 大会公式映像



bit.ly/3BvltZM

大会ダイジェスト映像・コースガイドなどはこちら

## MESSAGE FROM TRIATHLETES

参加トライアスリートからのメッセージ

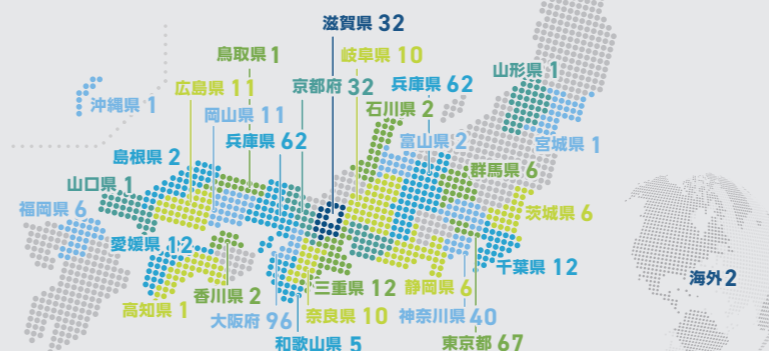


オン・ジャパン株式会社 代表 駒田 博紀 さん

「サステナブル」とは、持続可能性を意味します。生涯競技と言われるトライアスロンは、まさに持続可能性を一生追い求めるスポーツです。そして、雄大な自然の中で遊ぶトライアスロンは、環境について考える機会にもなります。琵琶湖周辺で開催されるこの大会では、アスリートとして、自然を愛する人間として、サステナブルを身体で体感できることでしょう。当大会が長く持続し、地域平和とアスリートの心の平穏に繋がることを願っています。

## WHERE ARE YOU FROM?

参加トライアスリートたちの居住エリア



## RACE DATA レースデータ TRIATHLETES

エイジ (個人の部) 参加者数 **492** 名 / エントリー **550** 名

リレー 参加者数 **12** チーム / エントリー **32** チーム / エントリー **14** チーム  
\*1チーム2名で1人2種目を担当したチームあり

## VOLUNTEERS

大会 ボランティア **202** 名

地元自治会 ボランティア **49** 名  
びわこ成蹊スポーツ大学 学生 ボランティア **25** 名  
地元企業・一般受付 ボランティア **128** 名

## TECHNICAL OFFICIALS

マーシャル (審判) **56** 名  
日本トライアスロン連合(JTU)公認審判員

## ROAD TO 2025

2025年へ向けたロードマップ

